

子どもと教育・文化を守る

大阪府民会議ニュース

事務局 大阪教職員組合書記局内

TEL 06・6768・2330

FAX 06・6768・2239

発行 2011年3月14日

NO. 8

メールアドレス
daikyoso@
daikyoso.jp

教育文化府民会議

2010年度・総会

3月5日（土）に、教育文化府民会議の総会を行い、各地域、団体・個人から、61名が参加しました。

市民合唱団「ピースコーラル」のオープニングの後、大阪教育大学教授の久田敏彦さんの講演、地域子育てネットや各団体の取り組みの交流をし、橋下教育「改革」から子どもと教育・子育てを守るために取り組むべき課題を共有し、共同を

さらにすすめていくことを確認し、総会議案を承認しました。

久田講演

競争で学力・能力は伸びるのか」「橋下府政の競争主義教育のもたらすもの」

久田さんは、競争主義によってもたらされる学びの危機を大阪の具体例をあげて、競争主義は、他者との関係を分断し、学びの貧困化をまねき、自己責任型学習観、実存的危機をもたらすものでしかないとの批判し、潜んでいる子どもの要求に回答して、学ぶ意味や喜びなど

が体得でき、学ぶことが生きていることにつながるような教育を実現することが、私たちの課題であると話されました。



また、競争主義教育の経緯を説明し、大阪の教育は、習熟度別指導や「大阪府一斉学力調査」など「学力」

という一元的尺度による競争主義の展開と、「使える英語プロジェクト事業」や「進学指導特色校」指定などの多様化の名の下での多元的尺度による競争主義の展開との一体化が顕著な特徴であると指摘されました。

競争では、本当の学力を伸ばすことはできない。

学力とは何かは、論争課題であり続けてきて、定着した明らかなものはないが、今求められている「学力」は、「物事をなぜ、どうしてと問いただし、わかって、できる力」であり、これらの課題は全国や大阪ですでに取り組みされていることだと、具体的な実践例をあげて紹介されました。そして、競争はテストの点数を訓練によって一時的に上げさせ

はするが、本当の学力を伸ばすことはできないとドイツや習熟度別指導を例に批判されました。「学力差」があるからと習熟度別にする
と学力は貧困になる。「学力差」があっても、その中で、「なぜ、どうして」ということがみんなの共有課題になり、意味がわかり、みんながわかってできるということ
本当の学力が形成されると強調されました。



討論・交流から

若い人の参加、地域の居場所づくりへ

西淀子育てネットからは、1993年から18年、子育てのつどい、総会、学習、懇談に取り組み、継続の秘訣として、地域にかかわりながら、自分の要求としてこだわ
る人間がいること、地域の様々な団体・個人が参加し、学童のOBなど若い世代が参加してきていることを強調され、地域で子ども・青年などが自分らしくすごせる居場所づくりに取り組んでいることが報告されました。



「子ども・子育て新システム導入を許さない署名を

大阪保育運動連絡協議会からは、保育を市場化し、国と自治体の責任を後退させる「新システム」にかかわる政府提案は、批判が起ころう中で三転しているが、本質は変わっていない。導入を許さず、保育・子育ての拡充を求める新たな署名を集め、今国会中に提出す

る予定で取り組んでいるという報告がありました。
競争に勝てる学校ではなく、一人一人が大事にされる学校を

私学からは、経常費助成削減と配分方式変更で、学校が生き残れるかどうかにかかわってきている。自分が卒業する学校がなくなるかもしれないと生徒や先生、父母が12・18集会に参加したことや箕面市にある小規模な私学3校で、橋下知事による経常費助成削減と配分基準改悪の撤回を求める意見書が、昨年12月20日の定例議会で全会派一致で採択されたこと、意見書の中で、小規模な学校が存在することが選択の自由を保障することだとされ

たこと、小さな学校が好きだと選べる学校があることが大事であると発言されました。



「子ども調査」結果を活用し、子ども論議を

大阪教文センターからは、虐待問題特別部会で、子どもの虐待で、より多くの人とつながって取り組み、学習会、交流を行ったことや、「子ども調査」の普及版を作り、3月退職の先生が職場におみやげを残したいと、年度末や新年度に子どもがどういう状況にあるのか、子ども論議に欠かせない資料だとして40冊持って帰

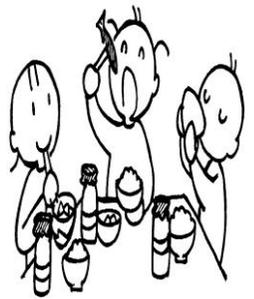
り活用され始めている例、09年度の相談活動の1400件の半分以上が、青年であり、青年に対する取り組みを具体化していく必要があると強調されました。

文化を大切に

「大阪子どもを守る会」準備会からは、6月に組織を立ち上げる予定であること、子どものためにいろんな立場の人が手を結びやすいことや「折り紙」が育ててに大事であることなど、文化の価値、文化の取り組みの必要性が強調されました。

小・中給食費を無償に

新婦人からは、大阪市が、2013年度から家庭弁当とセンター方式の給食という選択制の給食が実施され



ることになったが、センター方式は食中毒の被害の拡大も心配されること、全ての子どもを救うために、小・中の給食を無償にした、市教委が給食をどのようにしていくのか懇談の申し入れを行っていることが発言されました。



保育所ウオッチングでの

実態

大阪母親連絡会からは、保育所ウオッチングをして、

雑居ビルの中に「安心料金1分10円」という看板があったことや、そんなところに預けないと働けない実態があること、子どもが泣き叫んでいる様子など、子どもがどんな扱いを受けているか実態を知り、みんなに広げていくことが大事であると発言されました。

感想文より

*橋下知事のすすめようとしている教育では、子どもたちの学力は伸びるどころか、本当の学力はつかない、ということがよくわかりました。今年高校に入学する孫がいますので、大阪の教育の方向が心配です。府下各地で地道に取り組みされている内容を聞いて元氣ができました。

*日々、職場で子どもの教育に携わっています。年度の始めには、いつも「基礎的学力をつける」ことを目標に掲げていますが、学力とは・・・基礎的な学力とは・・・と言うことを改めて考えさせて頂きました。

*交流時に「教育への偏り」と「文化の弱さ」を本府民会議の課題として語られましたが、その根本にどのような問題があるのかわれな久田講演だったのでないかと思えます。先生が提起した「教養の個性化」、それは「自己一身上の課題」として学んだことが「わかっている、できる力」となり、その「関心の自発的、発展的システム」の実現によって、文化が築きあげられる

のだと思います。すなわち「橋下教育改革」批判と教育の条理・原則に基づく「学び」こそが普遍的で個性的な文化を創造する基礎だと思えます。そういう意味でも「教育と文化の内的連関性」をこれからも追求し、子ども、未来を切りひらく運動が求められていると思えます。



*「東大阪で子育て・教育を語る市民会議」事務局の活動をさせて頂いています。

ここに来て、さらに様々な場で、子育てと教育について考え、活動されている団体があることを知りました。いろいろなお話を伺い、力強く感じました。

*教育文化府民会議が「府民の会議」らしく動きはじめたと希望がもて、うれしく思います。①加入団体・個人に会費の納入呼びかけがあること、②「府民会議」のニュースが発行されはじめたこと、(中略)この2つが軌道にのるなら、代表委員と幹事(候補)団体だけでも、十万人に達するであろう人々に教育と文化に関わる動きや取り組みを広げることができ、巨大な力を発揮する展望を切りひらく

端緒となると思います。こ

れはおそらくこの府民会議結成当初の人々の思いそのものだったのでないかと想像します。

編集後記

教育文化府民会議は1991年12月18日に結成され、今年20周年になります。84年に結成された「教育臨調に反対し、教育をよくする府民連絡会」が、子どもと教育をめぐる情勢にふさわしい運動を作っていくと改組したものです。今年度の総会が多くの方の参加と各団体の子どもと教育を守る何年にもわたる粘り強い取り組みが交流され、教育文化府民会議の課題もいっそう明らかになりました。来年度もさらなる共同を強め、子どもと青年の未来をきりひらいていきましょう。(S)